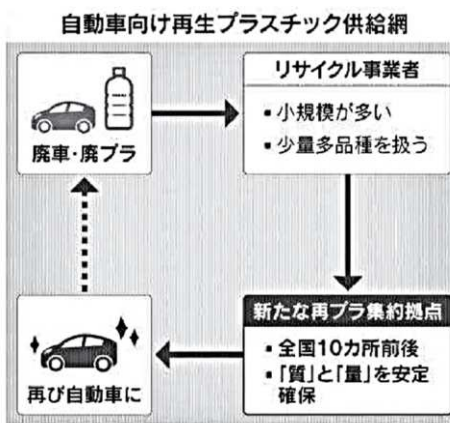


車向け再生プラの拠点へ

富山の官民、国の方針受け

白動車向け再生プラスチック素材の供給網づくりに向けて、富山県の官民が拠点整備に乗り出した。リサイクル事業者が三井化学や白動車メーカーと協業して品質と効率を高める研究を進めるほか、関連業者の連携組織も誕生した。欧州連合（ＥＵ）の再生プラ活用増の規制検討を受け、国も全国に約10カ所の回収拠点整備に動くなか、富山県が名乗りを上げた。

樹脂原料販売の丸喜産業（富山県高岡市）は三井化学やNDEC、合成樹脂繊維大手の秋原工業と協業し、人工知能（AI）を使って廃プラスチックのリサイクルの品質向上と効率化に着手した。廃プラの回収、粉碎、配合・調色を経て再生プラスチックのペレットにする手順において、素材を混合す



丸喜産業はNECが開発したAIシステムで再生プラスチック製造を合理化する

三井化学などと装置開発
連携組織づくり進む

る工程で所要時間を25%削減する。

ラを製造する工程は熟練者の経験にたよっていた。丸喜産業の膨大なデータを基にNECがAIで最適配分できるようにした。二井化学が開発した粘度を即時に測定する押出機にAIを組み込み、廃プラスチックの極細粉末量を調整する装置を開発する。2026年2月から実証に入る。

丸喜産業の小園雄治社長は「新中用再生プラスチックを活用する中核技術の一

つとなり、関連事業者と連携する吸引力になる」と期待をこめる。

環境省は10月、再生プラ素材を集約して自動車部品メーカーに供給する民間拠点を全国整備するの方針を打ち出した。10力所程度を27年度からスタートさせて、質と量の安定確保につなげる。EUが新中につうプラスチックについて最大25%まで再生プラ活用を義務づけける見通しを踏まえた。国内では自動車部品向けには、ほとんど再利用されていない。

「国へ富山県に誘致することの利点を示していきたい」。環境省の施策を受け、新田八朗知事は2日の県議会で、再生プラ集約拠点を呼び込む意向を示した。根拠の一つが「関連産業が集まり循環

環利用
とだ

リサイクル機械製造のエムタイヤ（富山県滑川市）は自動車メーカーなどと協働して、ASRとよばれる自動車破砕残さのリサイクル手法の研究を進めている。車の中核部品にエンジンなどを外して破砕し、鉄やアルミなど有用金属を回収した後に残るもので、様々な種類のプラスチック素材が含まれている。

と樹形類に分離できる
森弘吉社長は「ASRRを有効に再利用でできれば、再生プラ使用率の向上につながる」という。ASRRから金属を除去して細かい粒状にする段階まで開発が進んでおり、自動車メーカーが部品への用途を検討していく。技術開発による質の追求に加え、まとまった量を供給するためのリサイクル事業者の連携も進む。

「サイト」「Re+」と「やま」を立ち上げた。「リサイクルの「入り口」「中間処理」「出口」がつながれば強みが増す」（商工労働部）

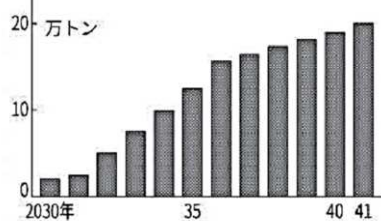
アルミ産業が集積する富山県では、アルミリサイクルが先行事例になっている。三協立山は地域のリサイクル事業者などと連携し、ビル解体現場から出るアルミ建材を回収して新たな建材への製品化を目指す。竹中工務店が

ただ、ASRにはワイヤ片など微細な金属も多く含まれており、車などに再利用する場合には除去が欠かせない。通常の破砕機はケーブルなどの金属と樹脂部分をまとめて粉砕し混合したまま

エムタイヤは、佐藤鉄工（富山県立山町）とブランドエンジニアリングのリョーシン（富山市）と連携し、6月に一般社団法人リサイクル機械工業会を設立した。互いの強みを生かしてリサイクル需要増に対応する。

活用を検討している。リサイクル体制が整備されれば、大手企業に採用されることのモデルとなる。

自動車向け再生プラ供給量の目標



(注)環境省が掲げる目標値

らそぎ取って分離する。
ASRに応用すれば金属

事業者、プラ製品メーカーの情報を集めたウェブ

ールし、拠点誘致を進めていく。
(伊藤敏克)